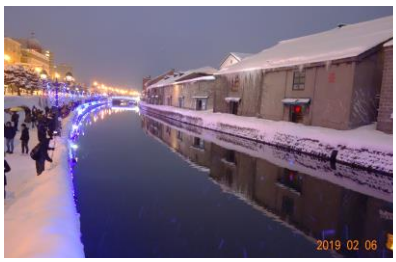
酷寒の北海道旅行（小樽から、札幌雪まつりへ）

小林信生（2019/2/21）

〇北海道は好きでよく旅に出かけるが、まだ一度も真冬の北海道を旅したことがなく、中でも、札幌の雪まつりは、前から観たいと願いながら実現できていなかったので、1 月末に思い立ち、旅行社を尋ねるとまだ飛行便とホテルが空いていることが分かって、すぐにその場で予約。

〇2 月 6 日（水）東京から小樽へ飛び、小樽で一泊。翌 7 日（木）午後、小樽から札幌に移動し、札幌で一泊。8 日（金）日中一杯、札幌の雪まつりを見学して、その夜の最終便で、深夜に東京へ戻るという 2 泊 3 日のハードスケジュールを組んだ。

〇2 月 6 日（水）12：00 羽田発ＡＮＡで小樽へ飛ぶ。ホテルにチェックイン後、すぐに夕方の小樽市内見物に出かける。雪のない小樽は何度か訪れたことがあったが、この日は午後から雪が降り始め、新雪を踏みながらの散策となった。ホテルから数百メーターの所に小樽運河がある。
ライトアップされた白雪の小樽運河は幻想的で、美しい。素晴らしい夜景を見ることが出来た。



（幻想的な小樽運河）

（倉庫を改造した運河食堂）

（日銀旧小樽支店―今は資料館）

〇2 月 7 日（木）午前、小樽の古い街並みを散策。小樽は金融・商業の街、運河沿いに昔のままの銀行や商店が並んでいて、まだ現役だ。昭和初期にタイムスリップした感じ。

（ホテルから運河方面を望む）

（雪降りしきる商店街）

（レトロな時計屋さん）

（倉庫を改造した北一硝子ショップ）

（旧百十三銀行小樽支店―現土産屋）

（ホタテや蟹の店頭焼き）

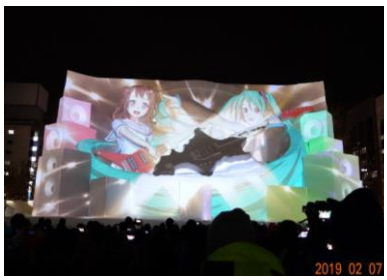
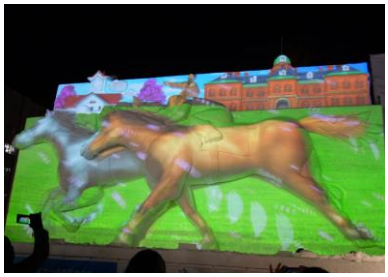
〇2 月 7 日午後、小樽から札幌へ移動。
ホテルにチェックインして小休止後、雪まつり「すすきの会場」から「大通り会場」の夜景を見学。気温はかなり下がっており、頬を刺すような冷たさにはマスクが効を奏す。

（すすきの会場は氷像が中心）

（夜のイルミネーションが映える）

（精細な氷の彫刻が素晴らしい）

〇すすきの会場を通り抜け、雪まつりのメイン会場である「大通り」会場へ。風がないので助かったが、ビルの温度表示はマイナス６℃を示しており、冷たさが身に凍みる。ここは、雪像が中心で、大中小と多くの像が、４丁目から１２丁目までずらり並んでいて、壮観である。

（上の大雪像は目玉で１０数メーターの高さがあり、プロジェクトマッピングで美しいカラーが浮かび上がる。
左：「初音ミクと戸山香澄 On Snow Stage」４丁目、中：「北海道を駆けるサラブレッド」５丁目
右：「スターウオーズ・エピソード９」10 丁目　それぞれ見ごたえのある大雪像であった）

〇上の大雪像のほかに、中小雪像にも特徴的なものが沢山あった。

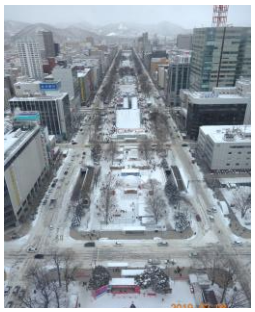
（日清食品カップヌードル）　（ＮＨＫキャラクター‘チコちゃん’）　（ドラゴンボール・ベジータ）

〇2 月 8 日（金）この日は北海道に大寒波がやってきて、札幌も何十年ぶりの寒さに震える。前夜回った所と同じ道を通り、夜と昼との比較をしてみる。夜は光と影がくっきりとして良かったが、昼は夜には感じられない広がりとダイナミックな風景を楽しむことが出来た。

（国際的展示　タイ国小雪像（優勝）　フィンランド大聖堂（7 丁目）　台湾の玉山と高雄駅（5 丁目）

昼間から
零下 11℃を指す

思い切って、冬の北海道へ出かけて、良かったと思う。
やはり、寒いところは、寒い時に行くのが最高である。
雪が積もって幻想的な小樽、また、豪快な雪まつりの札幌、
いずれも寒さ対策をしっかりとしていたので、問題なかった。
短い旅であったが、フルに活動できたので、密度の濃い時を
過ごすことできた。これで北海道が一段と好きになった。終り



テレビ塔から見る
雪まつり大通り

(左上のブラウザに戻って下さい)